

【男子個人ロードレース優勝を決めたばかりの松山学院の井上悠喜(右)京都府南丹市美山町特設ロードコース



1は、大洲が男子スプリント・カナディアンペア(5000)で7位、女子スプリント・カナディアンペア(5000)で8位となった。相撲の団体決勝は鹿角島実が埼玉栄を3-2で破り、50年ぶり2度目の優勝を果たした。バスケットボールの決勝で男子は福岡大が北陸(福井)を85-62で下し、9年ぶり5度目の制覇。女子は京都精華学園が東海大福岡に60-51で勝ち、2年ぶり4度目の優勝を挙げた。

自転車

【京都府南丹市美山町特設ロードコース】男子個人ロードレース優勝を決めたばかりの松山学院の井上悠喜(右)京都府南丹市美山町特設ロードコース

男子ロードレース 主将井上 有終

1周10・3を7周に持ち込む展開を演出も7位に入った。予選で優勝した男子個人ロードレース。松山学院の井上悠喜は、トップでゴールした直後、呪縛から解かれたように声を上げ、両腕を上げて喜びを表現した。前日の不眠による緊張の中、主将として同校を学校対抗総合9連覇に導く役割を果した。優勝候補として連覇を目指した1日のポイントレースは、複数の選手からのマークを受けて勝負どころを見失い、入賞も逃した。主将として引く張るつもりが「逆足を引きつる形となり、悔しさを申し込んでも遅いかな」という。そんな悔しい思いを振り切り、再度頂点を狙ったロードレースは、前半から先頭集団で駆け引きを繰り返しながら勝利を収めた。サポートしたのが後輩の各務選手と同級生の松田太朗。2選手は3番手集団のペースを制御する役目を務め、3人による勝負

松山学院 総合V9



一丸 到達できた目標

自転車が行われた4日間、松山学院を引く張る3年生4人はレース後決まっていた「学校対抗総合9連覇」を口にしていた。同校で競技に打ち込む中、みんなで到達すべき目標だと認識していたからだ。中距離を軸に万端型の松田を筆頭に、長距離の井上、短距離得意な山崎と日高の4人が2年の春から中心となった。昨年のインターハイは車庄と戦いながらも各選手が協力してポイントを獲得重ねて8連覇を達成し、自信を深めた。昨秋には日高がレースで負傷し、長期離脱。松田は当時を振り返り「とても心配した」という。個人競技でありながら、団体での目標があることで仲間意識はより強くなった。昨秋の強さは今大会中も表れていた。1日の男子スプリントで優勝した山崎は、本来の力が発揮できなかった仲間を奮い立たせようとゴール後、旗を振り上げた。「まだ総合優勝の戦いは残っている」と最終日にエンタリした3人へのエールも兼ねていた。ロードレースで2人が入賞を果たし、松山学院は9連覇を達成。今大会、3年生4人全員が優勝を果たし、部員らと喜びを分かち合っていた。副主将の日高は言う。「総合優勝の道は簡単じゃない。でも頑張った目標が達成してほしい。覚えてくれるのがきっとあるから」(宇和上翼)

きょうの紙面 松山学院 自転車総合9連覇 21
「書道」水戸葵陵が連覇 ③ 砥部焼オブジェが3位 ⑧
注目「ちむに」ほろろ ④ 児童図書館業務を体験 ⑨
「はんぎり」レース白熱 ⑤ 台湾初公演世界を魅了 ⑩
医薬品提供体制を強化 ⑦ 新田が甲子園公式練習 ⑫



【男子スプリント決勝】残り1周でスパートをかけ差を広げる松山学院の山崎帝輝(左)―日本トータルブッキースタジアム岸和田

山崎
(松山学院)
頂点
男
スプリント子

全日本高校総体(インターハイ)は一日、大府府の日本トーターブリッキスタジアム岸和田などで行われ、愛媛勢は自転車の男子スプリントで山崎常雄(松山学院)が頂点に立った。陸上女子走り幅跳びで大西海優(新居浜東)が3位入賞した。

自転車では、女子スプリントで井上睦季(松山聖陵)が4位、男子スクラッチで各

近畿
インハイ
2026

務遠音（松山学院）が8位、同一1000メートルタイムトライアルで日高虎太郎（松山学院）が7位となった。重量挙げ女子58キログラム級ジャークで畠田海帆（新居浜南）が8位に入った。

サッカー男子決勝で静岡学園が近大付（大阪）に2―1で競り勝ち初優勝。

記録は愛媛勢

自転車

大阪府日本一ターフックス
タジヤム(岸田出)

▽男子スリム・快脚 入田 雄
山崎 隆雄 20 大田 隆雄
山崎 隆雄 20 大田 隆雄

▽女子スリム・快脚 井上 美奈
藤田 初美 20 井上 美奈
藤田 初美 20 井上 美奈

▽男子1000g以下・タイム
アル(春日井本館) 松山 学院
1分4秒08

▽頭ポテトレス・快脚 2分
松井 正樹 松山 学院 1分
松井 正樹 松山 学院 1分

▽頭スリム・快脚 1分4秒08

上位争い自信に



松山学院・各務遼意

(2年生) 男子スクラ
ッチで6位)「レース
序盤は緊張したが、徐
々に闘争心が湧いてき
た。最終周まで上位争
いを繰り広げることが
できたのは自信になっ
た。2日のロードレー
スも頑張る」



全力は尽くした

松山学院・日高虎太

学校総合Vへ「流れ変えたい」

男子スプリント決勝で鹿兒島の選手を下し、3月の全国選抜に続く栄冠をつかんだ瞬間、山崎帝輝（松山学院）は雄たけび

の別種目で落車事故に巻き込まれ負傷。影響が懸念される中、何とか今大会に間に合わせたという。

と、ともに攀を突き上げた。そこには、残りのレースに臨む仲間へのエールが込められていた。

レースは選を通じた16人が対戦。チームメイトに波があった。ポイントレースで昨年初期の井上悠喜が徹底マークをのぎきれず入賞を逃した。1000メートルライアルも全国選抜を制した日高虎太郎が

スプリントをト
帝輝—日本ト
アム岸和田



全国選抜に続き、男子スプリントを制した松山学院の山崎帝輝―日本トーターブッキースタジアム岸和田

間と総合優勝を目指し頑張ってきた。悪い流れを何とか変えたい」という思いを胸に果たし優勝だった。

チームスプリントとの2冠達成し、松山学院のトラック目覚ましい躍進に賞讃したが、総合優勝9連覇は2日のロードレースの結果次第となった。山崎は「いっぱいサポートする。みんな頑張ってくれる」と仲間にも頼りを託した。

（宇和上翼）

— いな精ス優種を たたて

きょうの紙面

自転車男子
スプリント
山崎
(松山学院)
が頂点
17

hime

花火翌朝に1000人超清掃
原爆詩朗読広島でWS
歩き遍路善根宿の交流
三津浜で恒例花火大会

新居浜で「溶接甲子園」6
弓削高生徒が「起業塾」8
新田花巻東と9日初戦15
天皇杯県代表愛媛FC16

松田(学院)2連覇

自転車男子3000個人追い抜き



松田奏太郎

全国高校総体(インターハイ)の自転車は31日、大阪府の日本トータースタジアム岸和田で行われ、男子3000個人追い抜きで松田学院の松田奏太郎が3分18秒304の大会新記録で2連覇を果

たした。
(23面に関連記事)
同種目のジュニア日本記録を保持する松田は、序盤から他選手を上回るスピードでレースを展開。2位に7秒以上の差をつけて圧勝した。3月の全国高校選抜でも同種目で2連覇しており、春夏通じて全国大会4連覇を達成した。
松田は今大会、30日に優勝した男子チームスプリントと合わせて2冠となった。(宇和上翼)

松田(学院)圧巻の大会新

自転車男子3000個人追い抜き連覇

全国高校総体(インターハイ)は31日、大阪府の日本トータースタジアム岸和田などで行われ、愛媛勢は自転車男子3000個人追い抜きで松田奏太郎(松田学院)が3分18秒304の大会新記録で2連覇した。陸上女



子1500円で井門頭(聖方タリナ学園)が4位に入った。サッカーの女子決勝は藤枝順心(静岡)が3-0で十文字(東京)を破り2年ぶり4度目の優勝を果たした。

(一面参照)
II記録は愛媛勢

自転車

大会	種目	順位	選手	所属
男子3000個人追い抜き	1位	松田奏太郎	松田学院	
	2位	山崎大輝	山崎学院	
	3位	田中健太	田中学院	
	4位	井門頭 聖方	聖方タリナ学園	
女子3000個人追い抜き	1位	山崎大輝	山崎学院	
	2位	田中健太	田中学院	
	3位	井門頭 聖方	聖方タリナ学園	
	4位	山崎大輝	山崎学院	

他選手7秒以上離す

松田学院の一員として臨んだ最後のインターハイ。松田奏太郎は得意の3000個人追い抜きで他選手を7秒以上離す圧巻のレースを披露した。後、目に涙を浮かべていた。高校生活の節目の大会で全力を尽くし、思いがこみ上った。兵庫県出身、親元を離れて自転車競技の盛んな同校に進学した。寮生活を送りながら3

ゴール後は高校に送り出してくれた家族や、励まし合ってきたチームメイトとの日々が頭をよぎったという。股間痛「監督からの「よく頑張ってきた」という言葉が、ありがたかった。ありがとう」とねぎらいに思わず自頭を押さえた。

2日の個人ロードレースにもエントリーしている松田は「(松田学院の)総合優勝3連覇を達成したい」とラ

ストレーズを見据えた。(宇和上翼)



【男子3000個人追い抜き決勝】3分18秒304の大会新記録で2連覇を果たした松田学院の松田奏太郎



男子3000個人追い抜きで2連覇し、優勝記念のジャージを着てガッツポーズする松田奏太郎(日本トータースタジアム岸和田)

松山学院 最高スタート



【男子チームスプリント決勝】1分14秒263のジュニア日本新記録で優勝した松山学院(左から松田、日高、山崎)＝日本トータースタジアム岸和田

全国高校総体(インターハイ)は30日、大阪府の日本トータースタジアム岸和田などで行われ、愛媛勢は自転車男子チームスプリントで松山学院(松田奏太郎、山崎帝輝、日高虎太郎)が1分14秒263のジ

近畿
インハイ
2026

自転車男子
Tスプリント
ジュニア日本新

ユニア日本新記録で頂点に立った。女子1000メートルトライアルで井上咲季(松山聖陵)が8位に入った。
ソフトボールの女子は千葉経大付千葉が花巻南(宮里)を20で下し、5年ぶり3度目の頂点に立った。(一面参照)

記録は愛媛勢

自転車

大阪府日本トータースタジアム岸和田
男子チームスプリント
優勝 松山学院 1分14秒263
2位 日高学院 1分15秒01
3位 山崎学院 1分15秒01

3人1丸総合V9へ

自転車男子チームスプリントの最終周、周回を離れる松山学院の松田奏太郎が「行け」とエールを送ると、最終周まで走る山崎帝輝は「よし、ぶちかます」と気合を入れてペダルを踏み込んだ。
中距離を軸とする松田に、短距離種目で経験を積んだ山崎と日高虎太郎の3年生3人が2年連続で挑んだ決勝。昨年の3位を越える優勝はもちろん、2年前に先輩たちが樹立したジュニアと高校記録の更新を目指した。3周のタイムで競う

レースは四国選手権と同様に日高、松田の順に先頭を務め、瞬発力に優れた山崎が最後を走る形を取った。1周目で日高ができただけ早くトップスピードに乗り、2週目の松田が速度をキープ。22チーム中のトップに躍り出ると、山崎は残り400メートルを疾走。他チームとの差をさらに広げてゴールした。
タイムは1分14秒263。2位となった昨年の王者・岡山工を引き離し、2年前に先輩が成し遂げたジュニア日本記録を1秒以上縮

日高は「お世話になった先輩を超えられてうれしい」と話し、松田は「3人で1丸となつていいレースができた。この勢いを次の種目につなげる」と意気込んだ。山崎は男子スプリントでも順調に勝ち上がり、31日の準々決勝に進出。松山学院勢は初日、最高のスタートを切った。(宇和上翼)

松山学院 堂々V

近畿
インハイ
2026



自転車男子チームスプリントジュニア日本新

全国高校総体(インターハイ)自転車のトラック種目が30日、大阪府の日本トータースタジアム岸和田で始まり、男子チームスプリントで松山学院(松田奏太郎、山崎帝輝、日高虎太郎)が1分14秒263のジュニア日本新記録、高校新記録で優勝した。
(19面に関連記事)
3人が1列になって走り、1周回(400メートル)ごとに先頭の1人が離脱し、3周のタイムで競う種目。スタートから先頭の日高が流れをつくと、2周目も松田がスピードを維持。第3走者の山崎がスタートをきり、2年前に同校が樹立したジュニア日本記録を1秒以上更新しゴールした。表彰式で優勝記念のジャージを着用した3人は高々と手を上げ、喜びを分かち合った。
自転車のトラック種目は8月1日まで行われ、2日は京都府南丹市で男女個人ロードレースを実施する。(宇和上翼)

男子チームスプリントをジュニア日本新記録で制し、優勝記念ジャージを着てポーズを取る松山学院のメンバー(左から日高山崎、松田)＝30日午前、日本トータースタジアム岸和田